

早稲田大学 法学部 日本史 講評

〔総合分析〕

| | |
|--------|--|
| 出題形式 | マーク・記述併用 |
| 試験時間 | 60分 |
| 特徴・その他 | 本学部で数年前まで出題されていた「用語を知らなきゃ正解できない」問題はなりを潜めた。全体的にやさしくなっかなり高得点がねらえる問題となっている。 |

〔大問別講評〕

| 番号 | 出題内容 | コメント | 難易度 |
|-----|--------------|---|-----|
| I | 古代～近世の仏教 | 難問は問8。正解した人も結構いるだろうが、一般には獅子狩文様錦は出題率が低い。逆に問5はやや難しいが、消去法で正解できる。問2・8などの解答を2つ選ばせる問題では完答で初めて正解となる。 | 標準 |
| II | 江戸時代の外交 | 早稲田では定番テーマからの出題だが、拍子抜けするほど簡単だった。やや難しいのは問8だが、それぞれの人物が探検した方向などを考えれば正解することは可能だった。 | やや易 |
| III | 明治時代の外交 | 難問は問2のA。のこりは素直に解けば容易に正解できる問題ばかりで、もの足りなさを感じるほど。 | やや易 |
| IV | 大正・昭和時代の汚職事件 | ある意味法学部らしい問題で、正解しやすかった人も多いかもしれない。正誤問題がやや難しいが、消去法で解けば正解できる。ロッキード事件が発覚したのが田中角栄内閣の時ではないことは大学入試では定番のポイントだが、おさえていなかった受験生も多いだろう。こうしたポイントを逃さない学習をすべきである。 | やや易 |